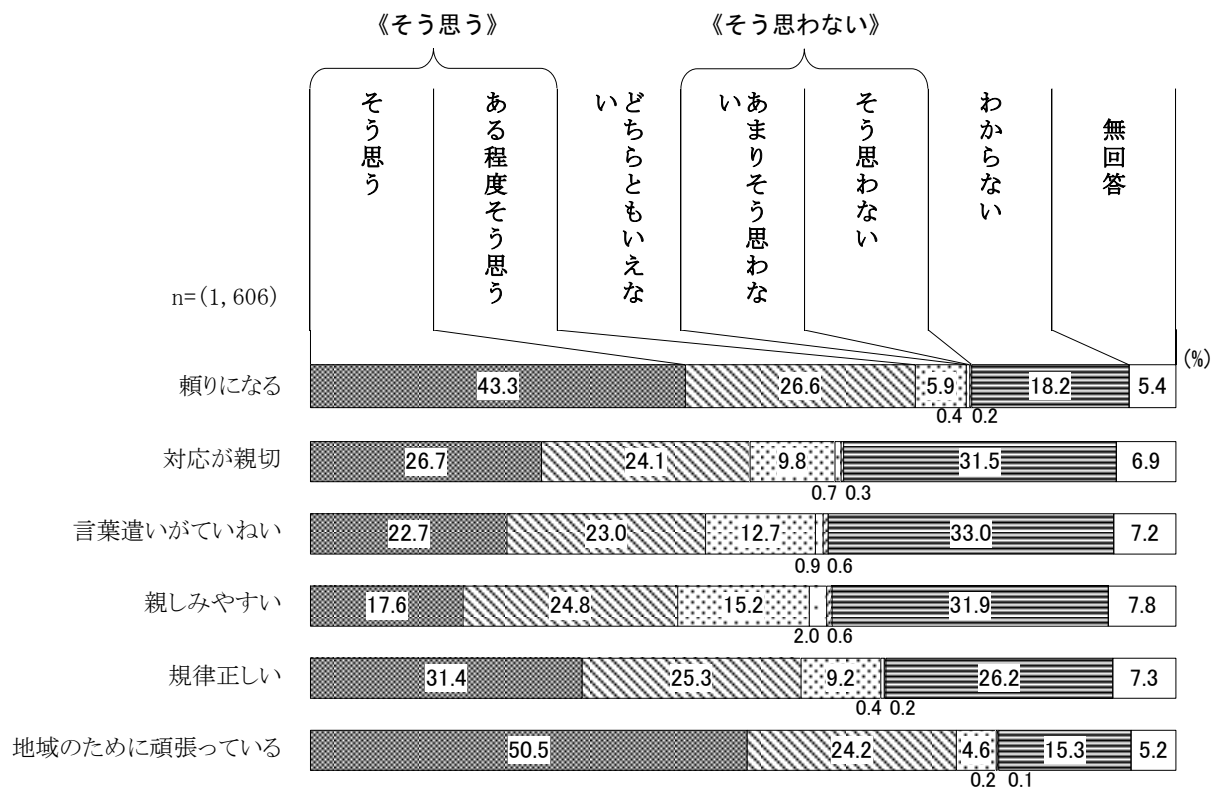


6. 消防組合の取り組みなどについて

(1) 消防職員に対するイメージ

問22 あなたは、川越地区消防組合の消防職員に対し、どのような印象（イメージ）を持っていますか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

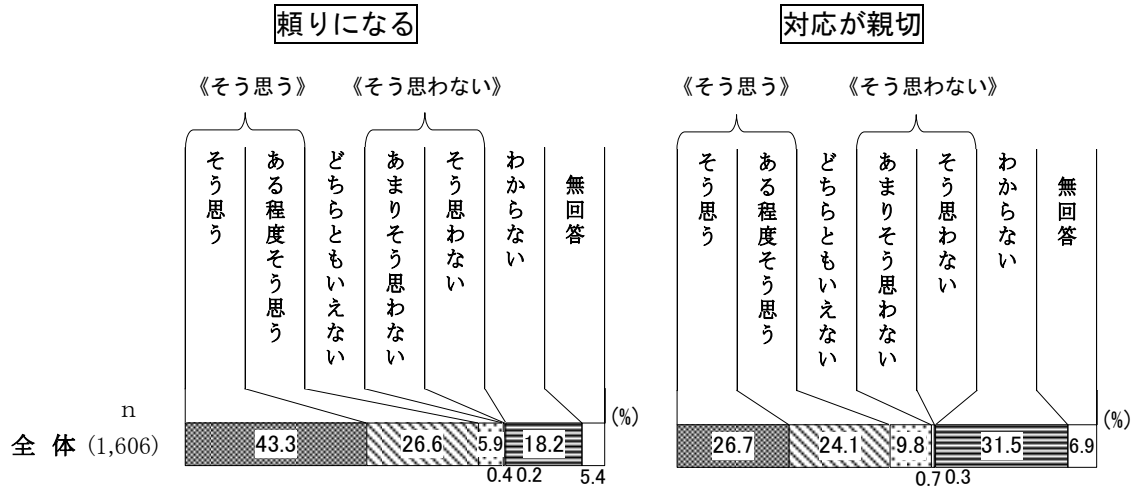


川越地区消防組合の職員に対するイメージを《そう思う》(「そう思う」と「ある程度そう思う」の計)で整理すると、「地域のために頑張っている」が74.7%で特に多く、「頼りになる」(69.9%)も約7割に達している。この他、「規律正しい」(56.7%)、「対応が親切」(50.8%)なども5割台となっている。「言葉遣いがいい」、「親しみやすい」は4割台であった。一方、《そう思わない》(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は、いずれも1割未満となっている。

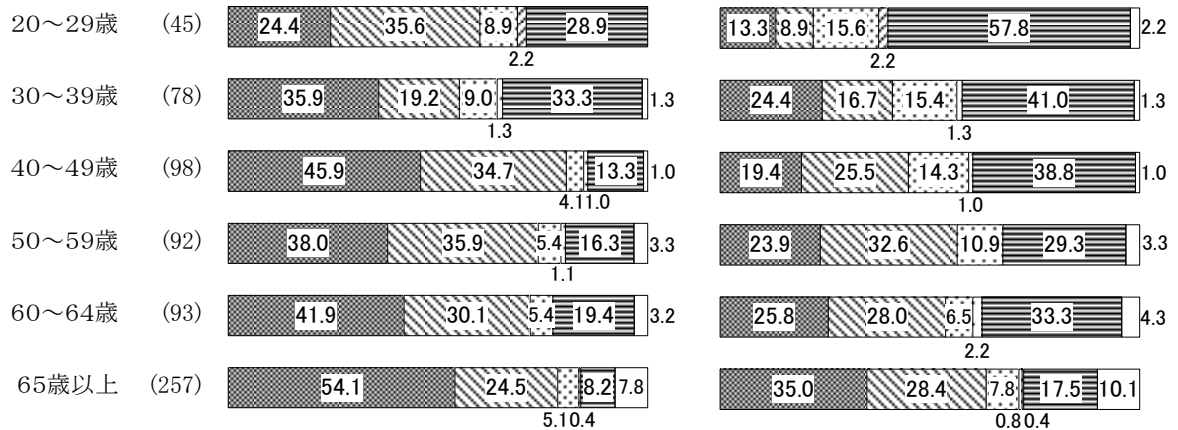
性・年代別にみると、多くの項目で男女とも40歳代以上の《そう思う》が多くなっている。

20～29歳、30～39歳では「わからない」が比較的多くなっているが、《そう思わない》はすべての項目において、いずれの層でも1割未満となっており、消防職員に対して否定的な印象を持つ人は極めて少ない。

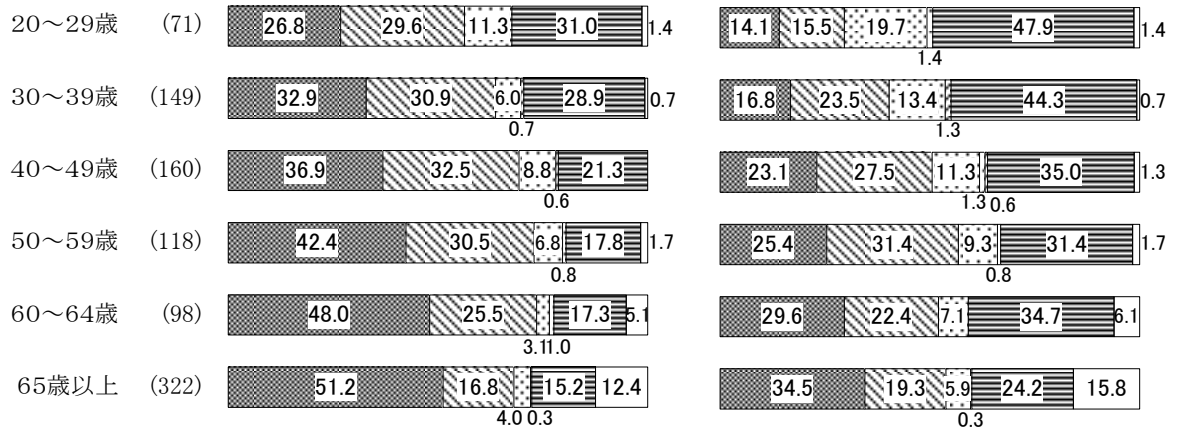
性・年代別



【性・年代別－男性】



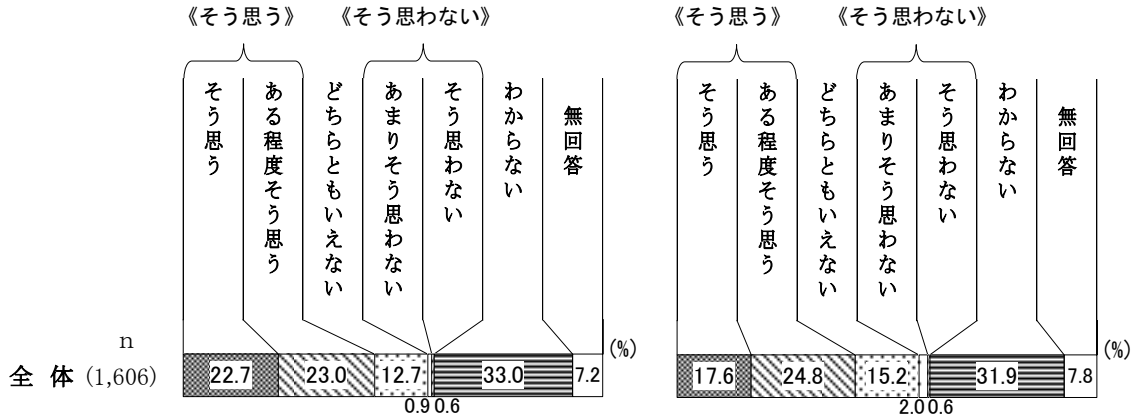
【性・年代別－女性】



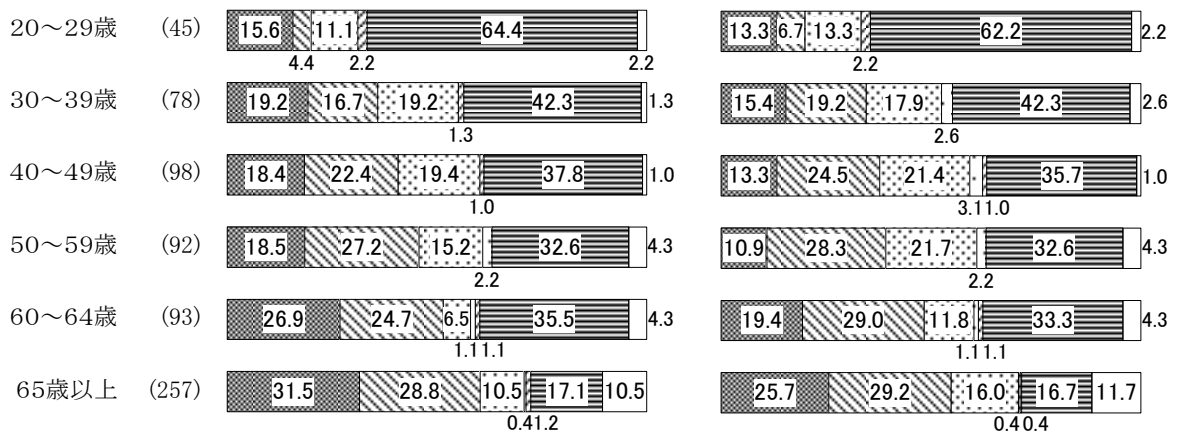
性・年代別

言葉遣いがいい

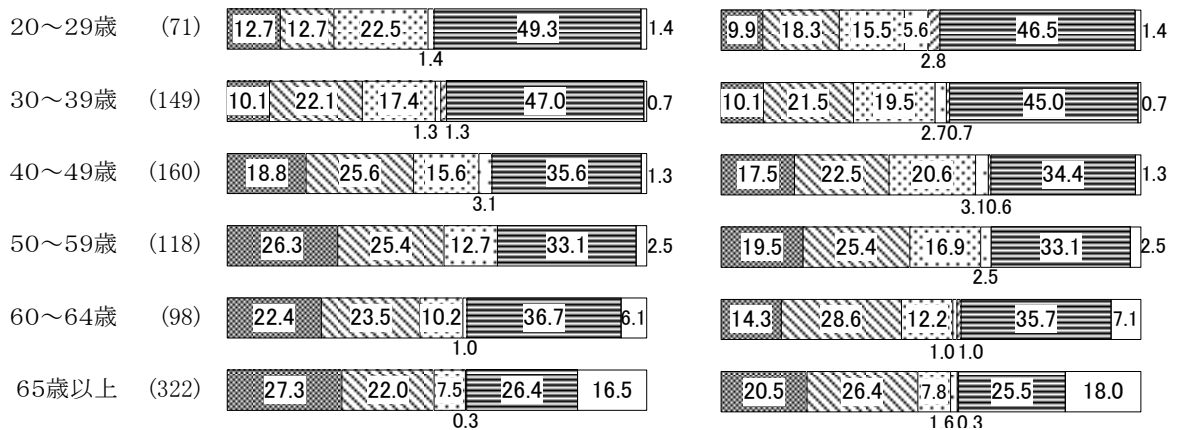
親しみやすい



【性・年代別—男性】



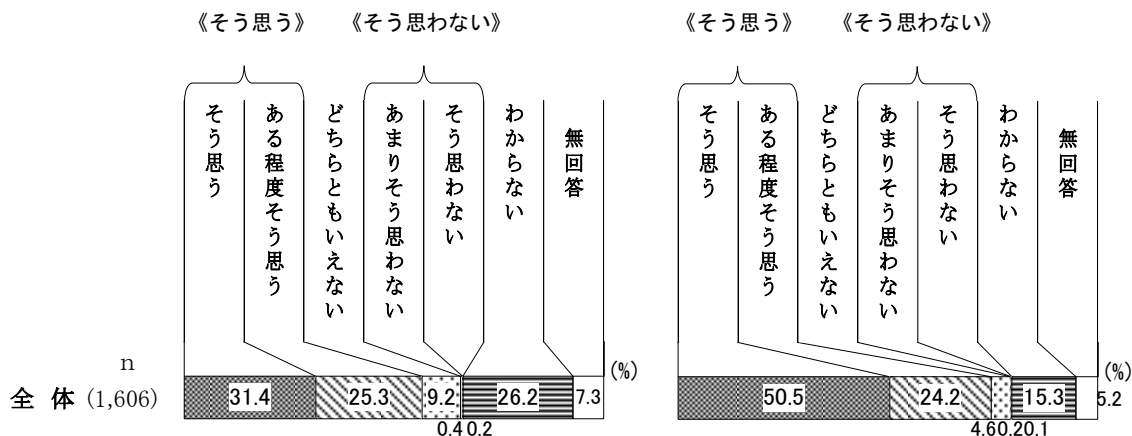
【性・年代別—女性】



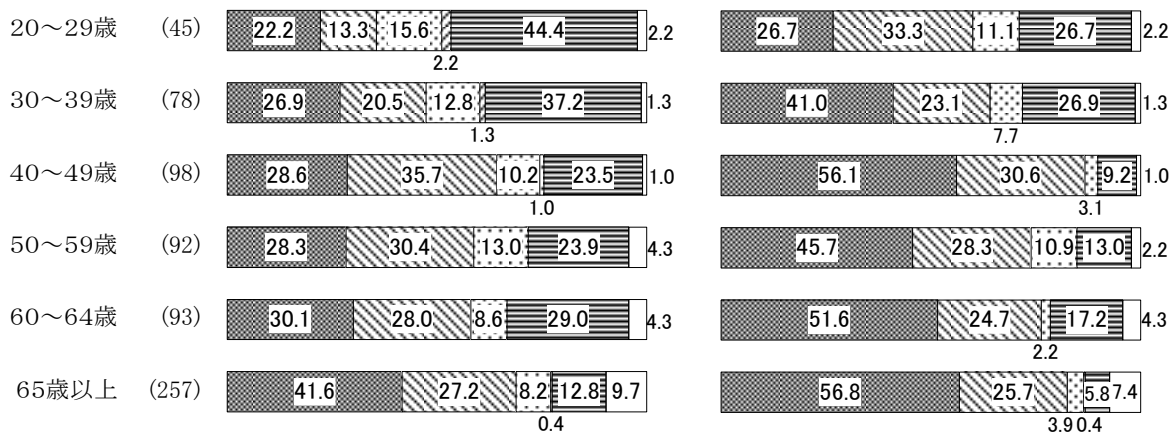
性・年代別

規律正しい

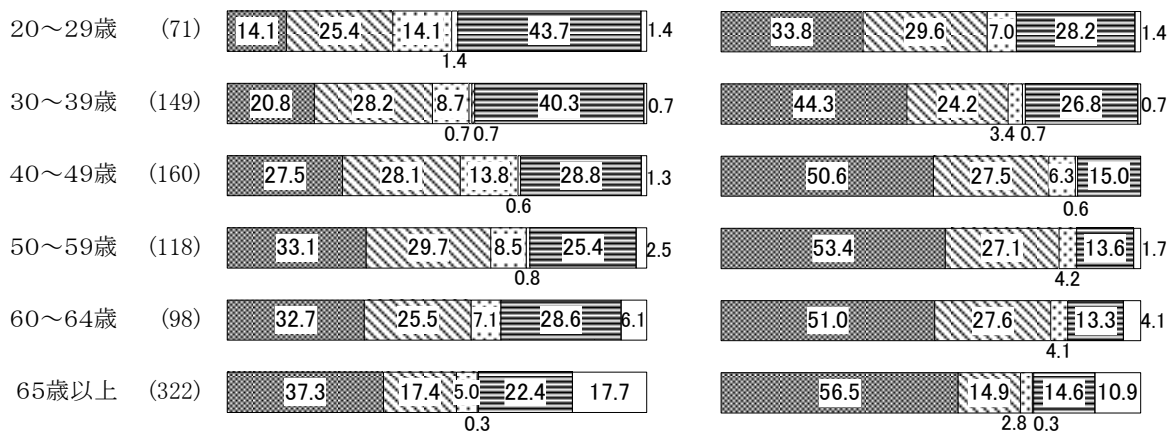
地域のために頑張っている



【性・年代別—男性】

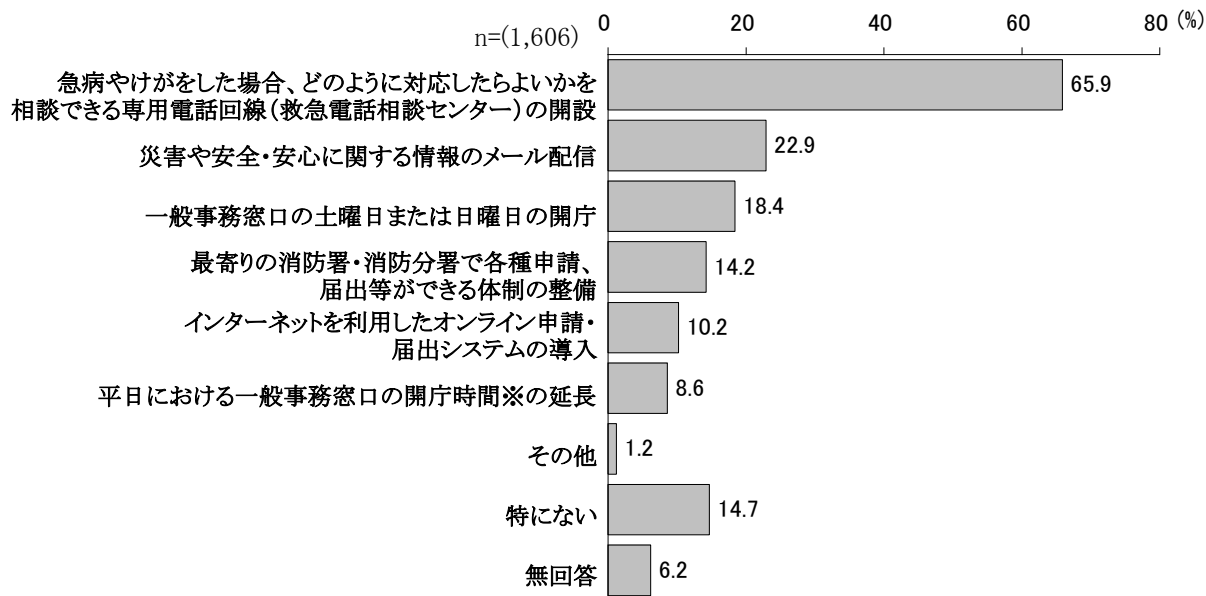


【性・年代別—女性】



(2) 導入してほしい行政サービス

問23 あなたが、川越地区消防組合に実施または導入してほしいと考える行政サービスはどのようなものですか。次の中から3つ以内で選んでください。(〇は3つまで)



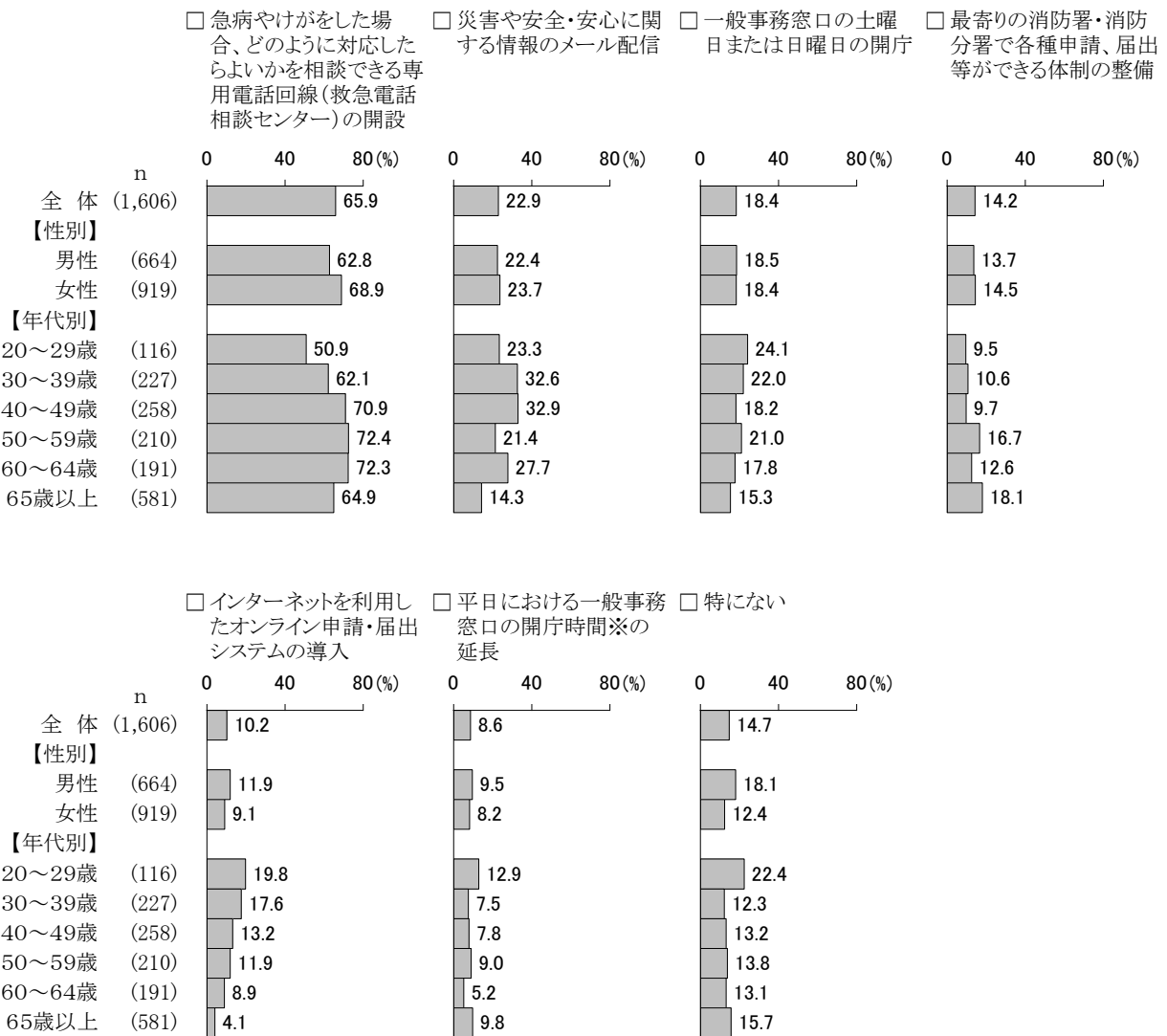
※現在の開庁時間は、8:30から17:15まで

川越地区消防組合に実施または導入してほしいと考える行政サービスは、「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」が65.9%で特に多くなっている。以下、「災害や安全・安心に関する情報のメール配信」（22.9%）、「一般事務窓口の土曜日または日曜日の開庁」（18.4%）、「最寄りの消防署・消防分署で各種申請、届出等ができる体制の整備」（14.2%）などが続いている。

性別にみると、男女ともに「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」が特に多くなっている。

年代別にみても、「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」は各年代で最も多くあげられている。また、40歳から64歳まででは7割台と特に多くなっている。この他、「災害や安全・安心に関する情報のメール配信」は30～39歳（32.6%）、40～49歳（32.9%）で3割台、「インターネットを利用したオンライン申請・届出システムの導入」は20～29歳（19.8%）、30～39歳（17.6%）で2割近くとなっている。

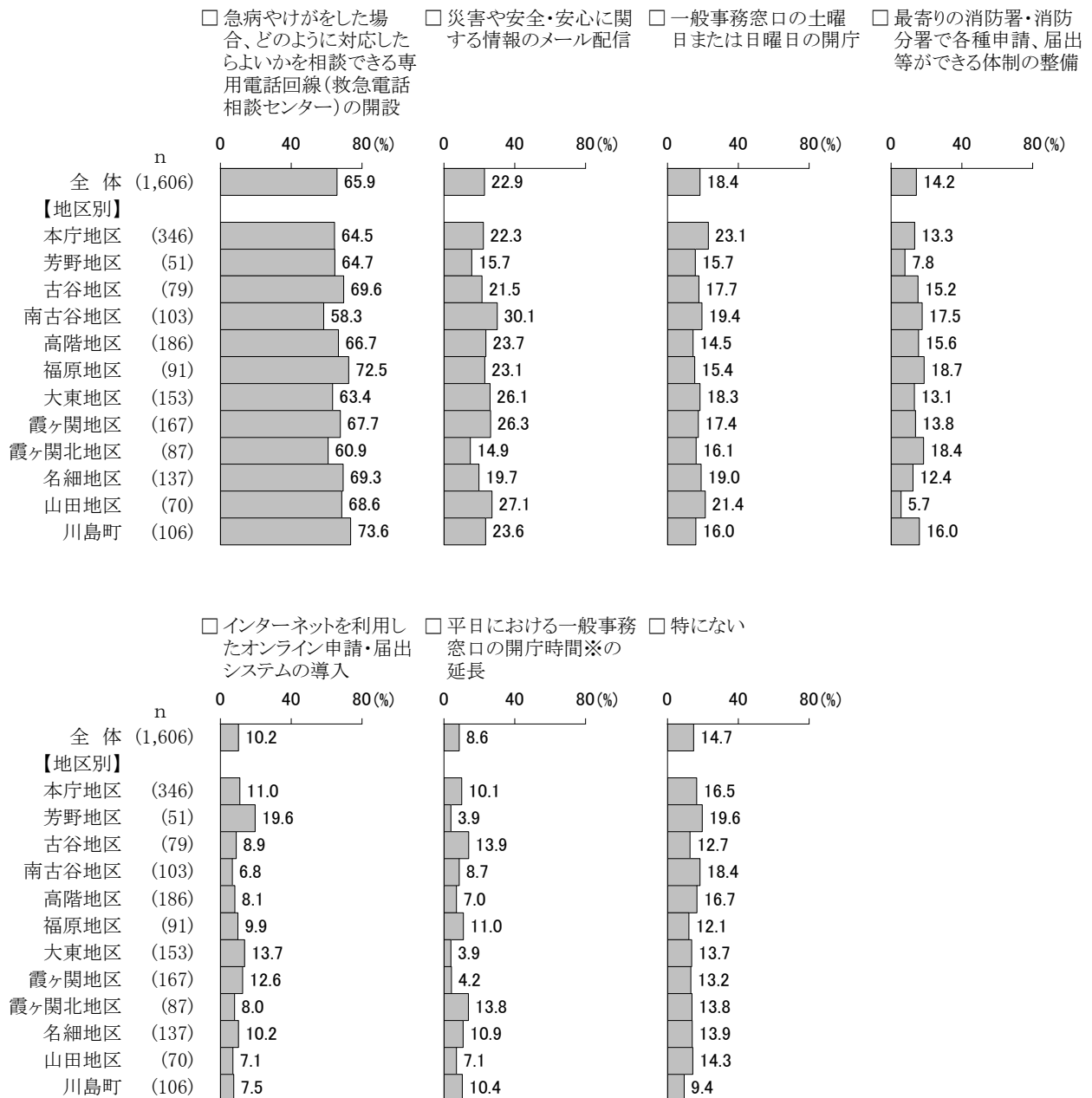
性別／年代別 上位6項目＋特にない



※現在の開庁時間は、8:30から17:15まで

地区別にみても、「急病やけがをした場合、どのように対応したらよいかを相談できる専用電話回線（救急電話相談センター）の開設」はすべての地区で最も多くあげられている。全体的に各地区で共通した傾向となっているが、その中では南古谷地区では、「災害や安全・安心に関する情報のメール配信」が30.1%、芳野地区は「インターネットを利用したオンライン申請・届出システムの導入」が19.6%と比較的多くなっている。

地区別 上位6項目+特にない

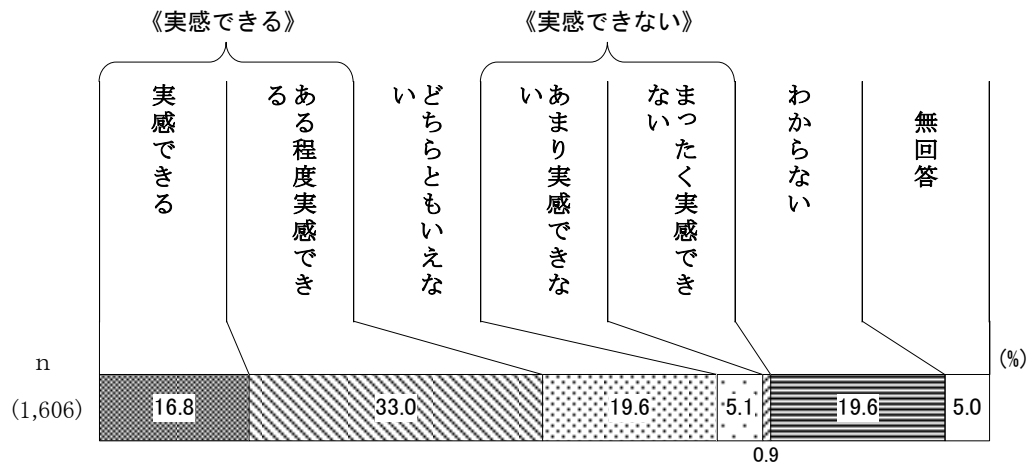


※現在の開庁時間は、8:30から17:15まで

(3) 消防・救急・防災面での安全・安心の実感度

問24 あなたは、川越地区消防組合の管内（川越市・川島町）に住んでいて、消防・救急・防災の面で「安全・安心」を実感できますか。次の中から1つだけ選んでください。

(○は1つ)

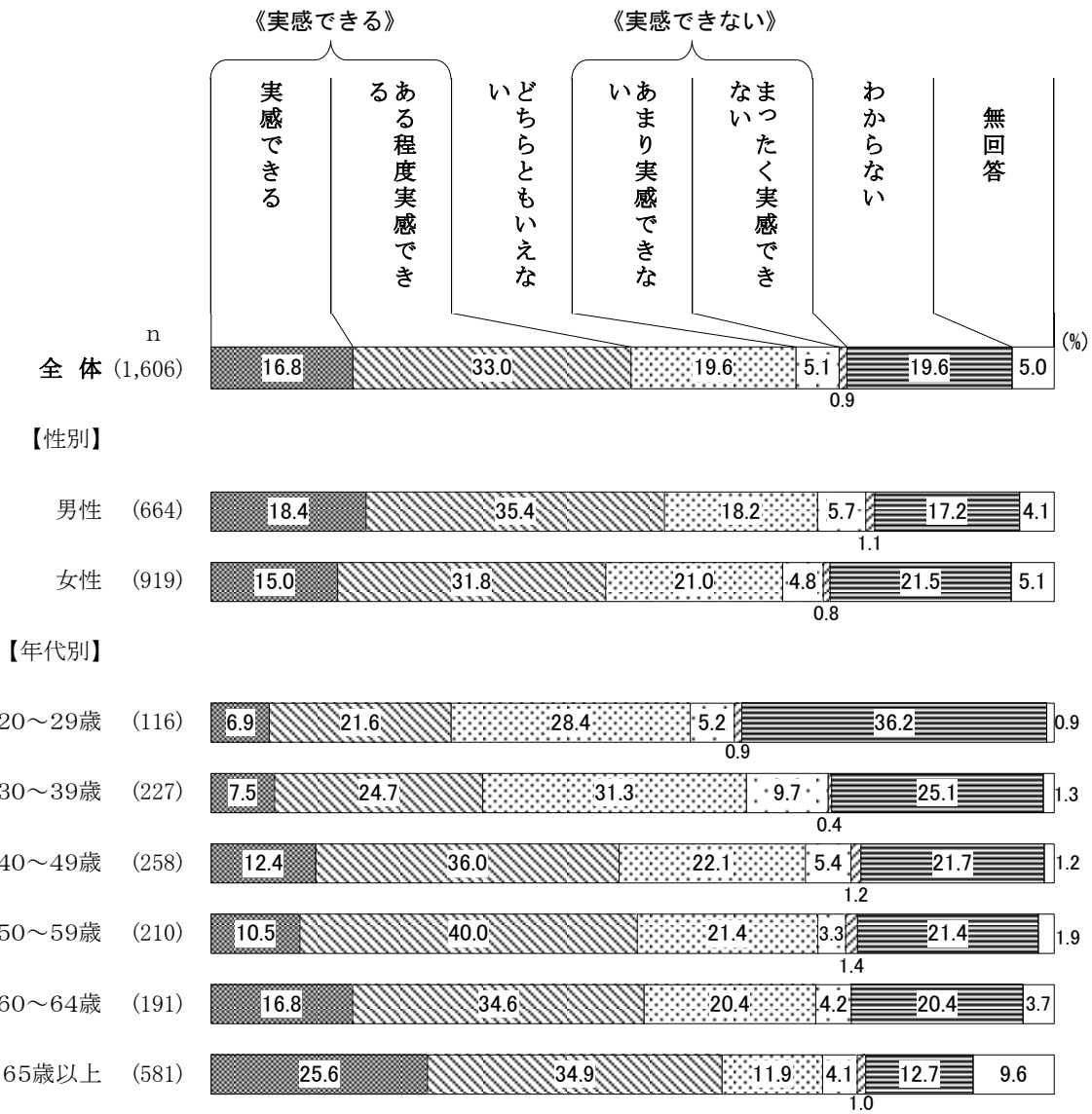


川越地区消防組合の管内（川越市・川島町）に住んでいて、消防・救急・防災の面で『安全・安心』を実感できるかでは、「実感できる」が16.8%で、これに「ある程度実感できる」（33.0%）を合わせた《実感できる》は約半数（49.8%）となっている。一方、《実感できない》（「まったく実感できない」と「あまり実感できない」の計）は6.0%にとどまる。なお、「どちらともいえない」、「わからない」がともに19.6%と比較的多くなっている。

性別にみると、《実感できる》は男性では53.8%、女性では46.8%となっている。

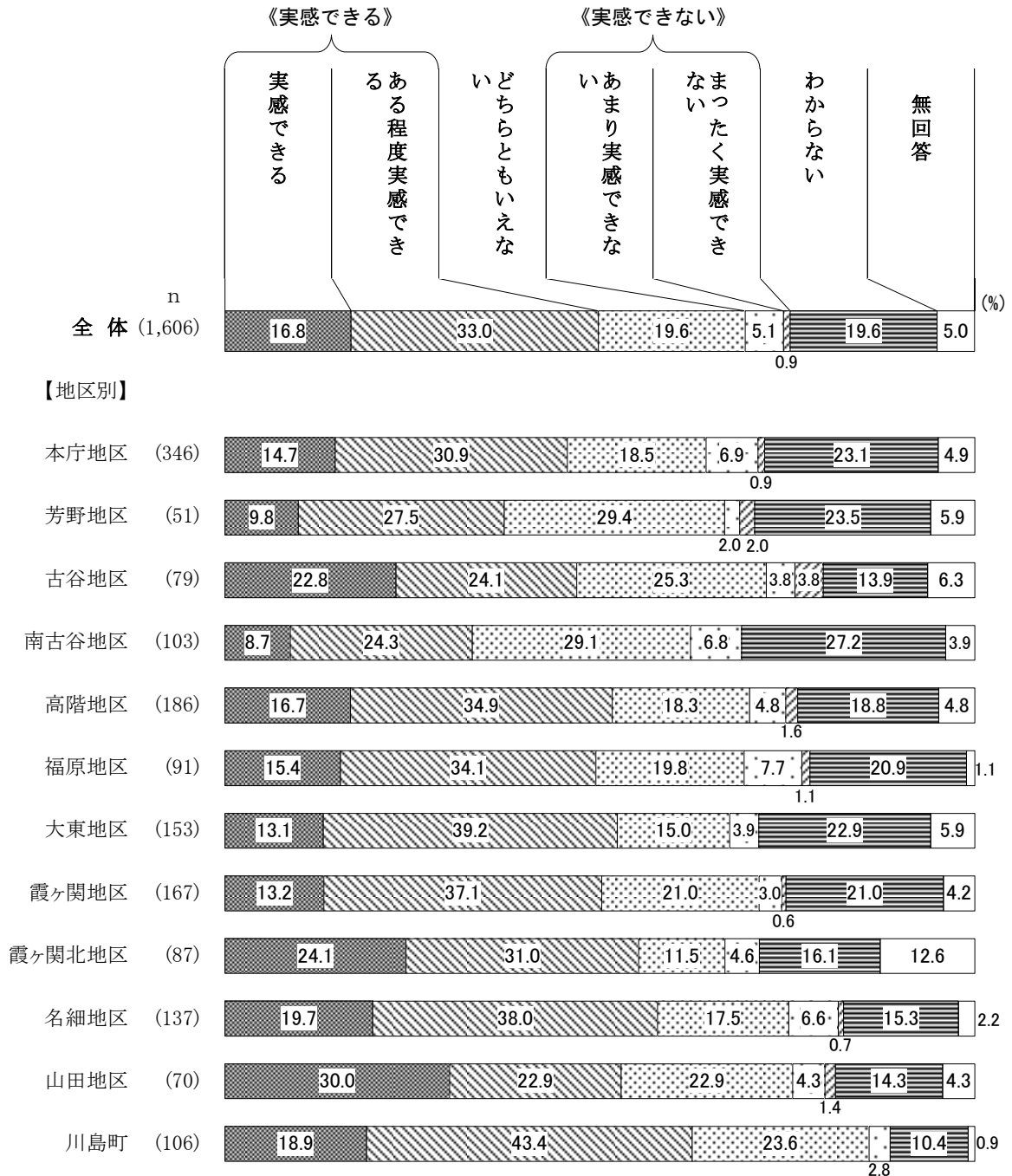
年代別にみると、《実感できる》は20～29歳では28.5%にとどまるが、年代が上がるにつれて上昇し、65歳以上では60.5%と多くなっている。一方、《実感できない》はどの年代でも少数だが30～39歳では10.1%と唯一1割を超えている。

性別／年代別



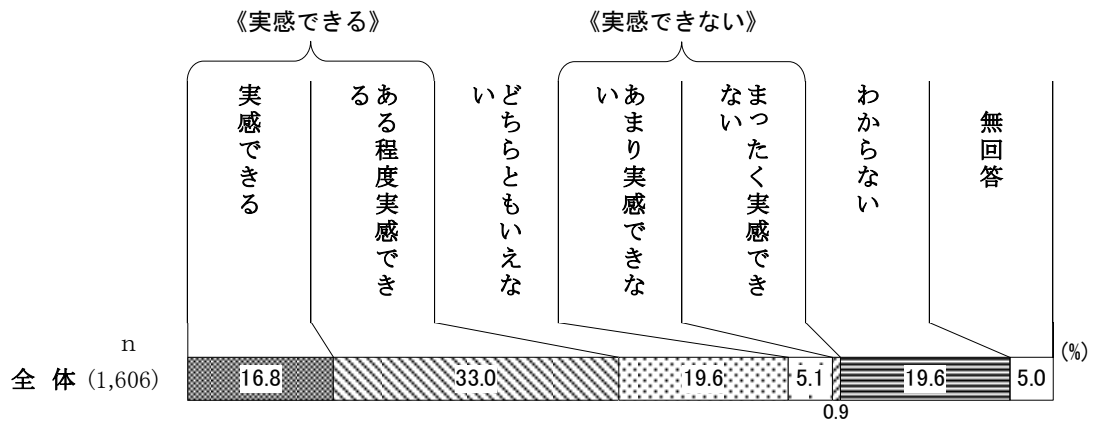
地区別にみると、《実感できる》は川島町が62.3%と多く、名細地区、霞ヶ関北地区、山田地区、大東地区、高階地区、霞ヶ関地区でも5割台となっている。一方、芳野地区（37.3%）、南古谷地区（33.0%）では3割台となっている。なお、《実感できない》はいずれも1割未満である。

地区別

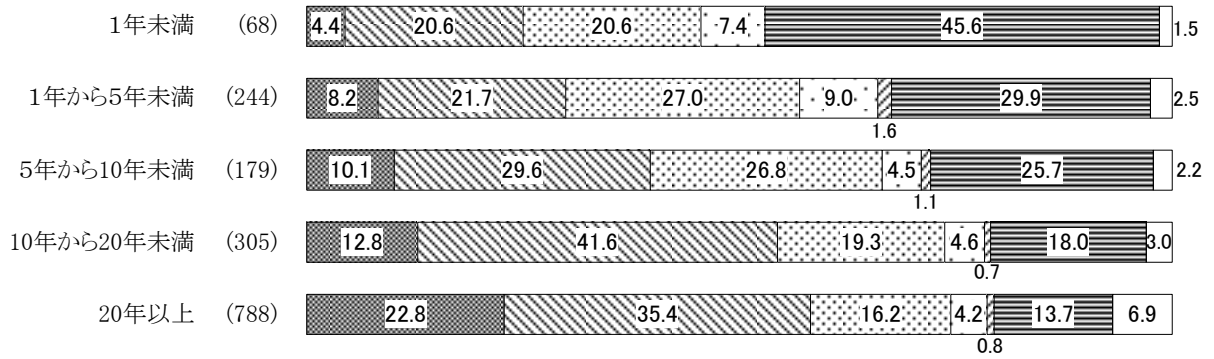


居住年数別にみると、《実感できる》は居住年数が長いほど割合が高く、1年未満では25.0%にとどまるが、10年から20年未満（54.4%）で5割を超え、20年以上では58.2%となっている。なお、《実感できない》は1年から5年未満で10.6%と唯一1割を超えている。

居住年数別



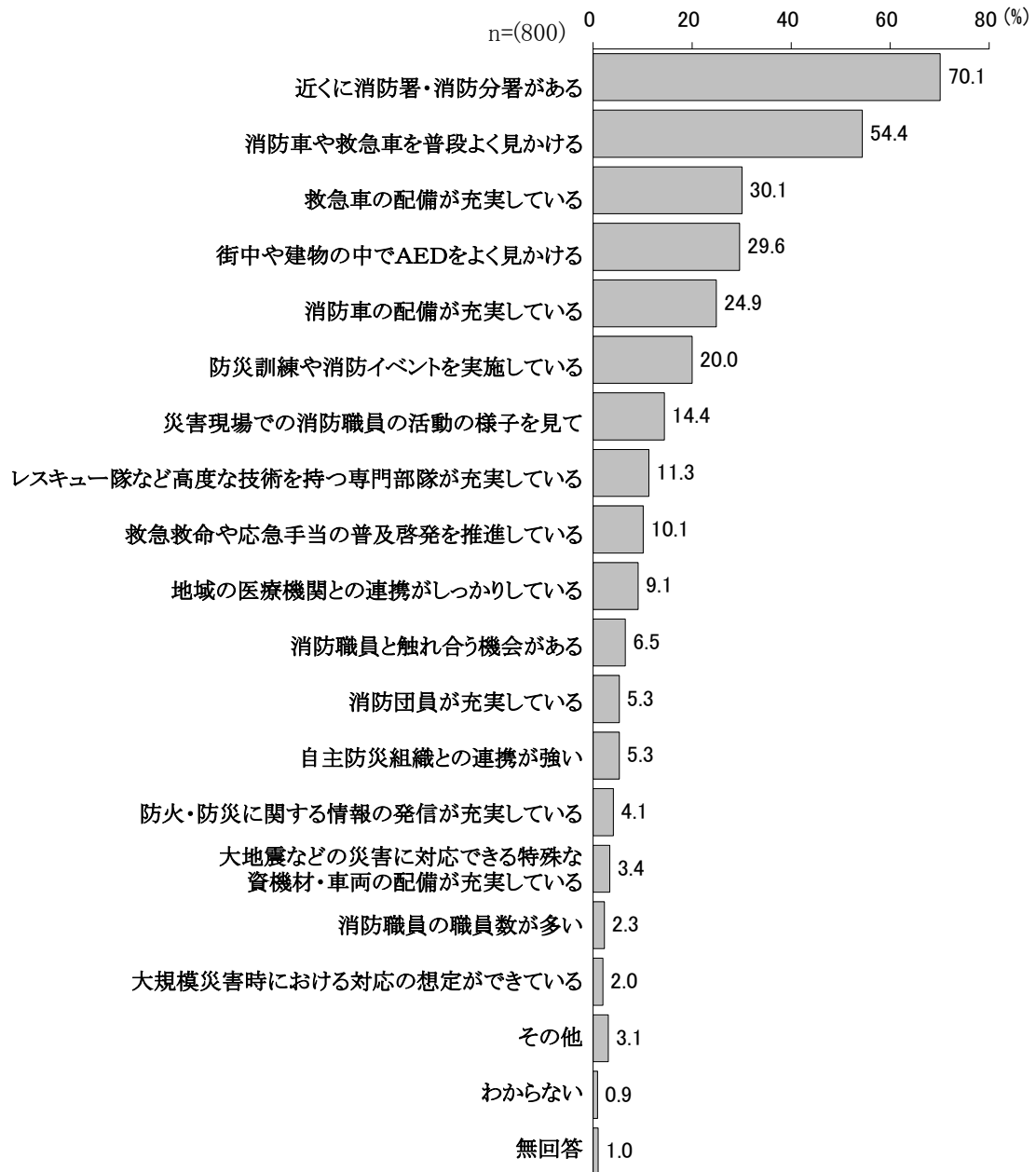
【居住年数別】



(4) 安全・安心を実感できる理由

【問24で「実感できる」または「ある程度実感できる」と答えた方におたずねします。】

問24-1 「安全・安心」を実感できる理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(〇はあてはまるものすべて)

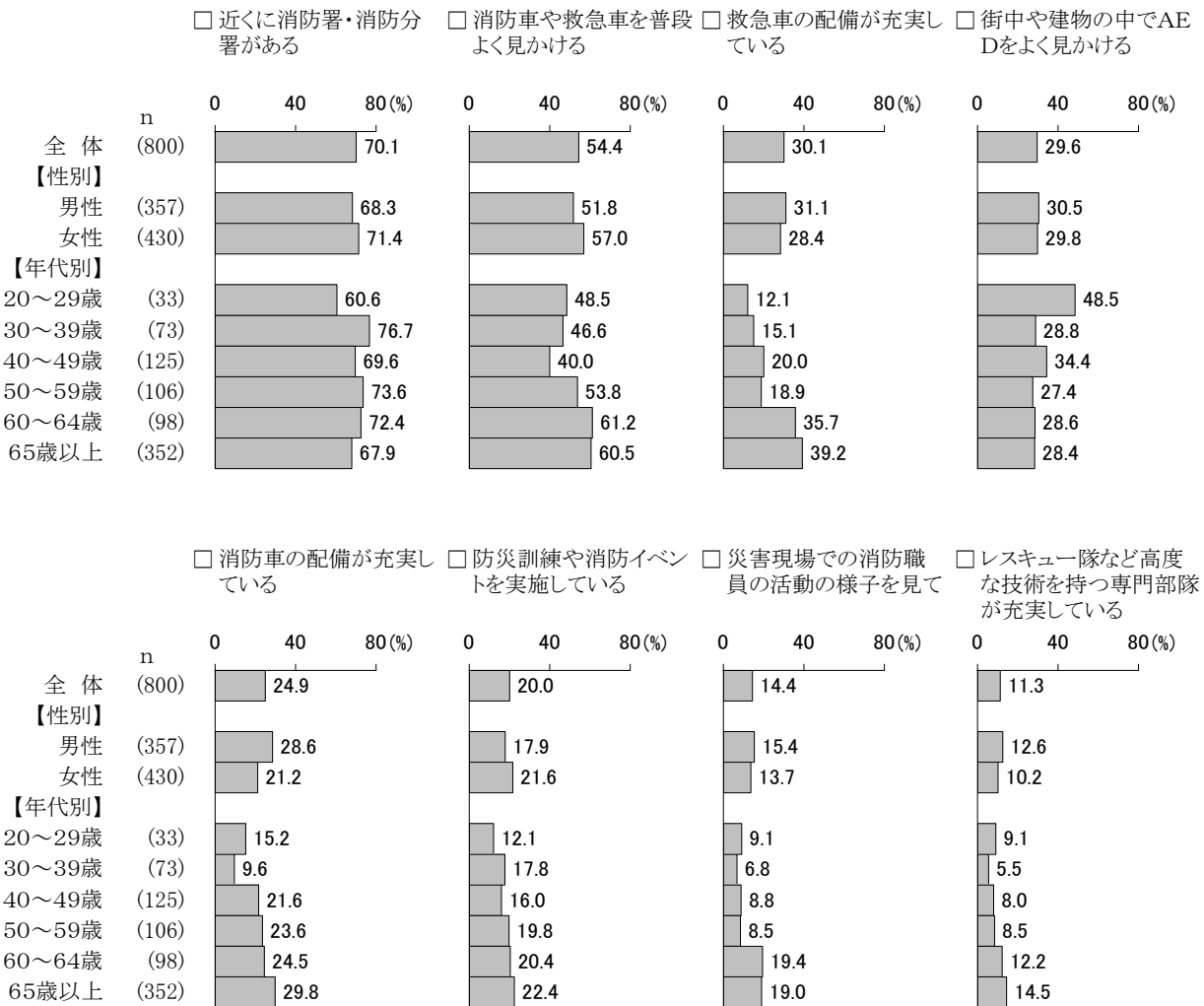


『安全・安心』を実感できる理由は、「近くに消防署・消防分署がある」が70.1%で最も多く、これに「消防車や救急車を普段よく見かける」が54.4%で続いている。以下、「救急車の配備が充実している」が30.1%、「街中や建物の中でAEDをよく見かける」(29.6%)、「消防車の配備が充実している」(24.9%)、「防災訓練や消防イベントを実施している」(20.0%)が2割台で続いている。

性別にみても顕著な違いはないが、「近くに消防署・消防分署がある」、「消防車や救急車を普段よく見かける」、「防災訓練や消防イベントを実施している」では女性からより多くあげられている。

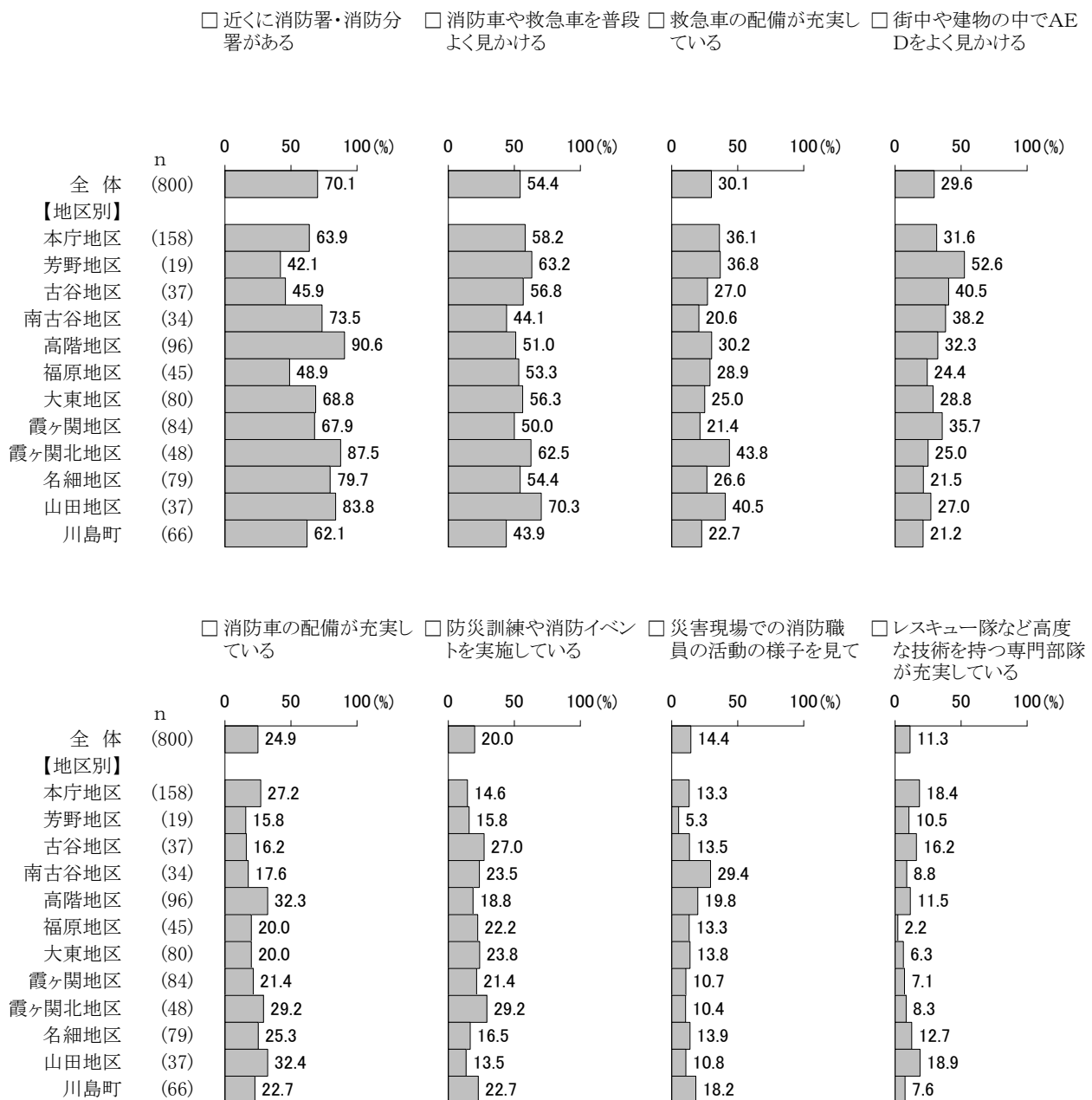
年代別にみると、「近くに消防署・消防分署がある」は各年代で最も多くなっている。また、60歳代以上では「消防車や救急車を普段よく見かける」や「救急車の配備が充実している」などの緊急車両の配置や日頃の活動に関する項目も比較的多くあげられている。一方、20～29歳では「街中や建物の中でAEDをよく見かける」が48.5%と5割近くに達している。

性別／年代別（上位8項目）



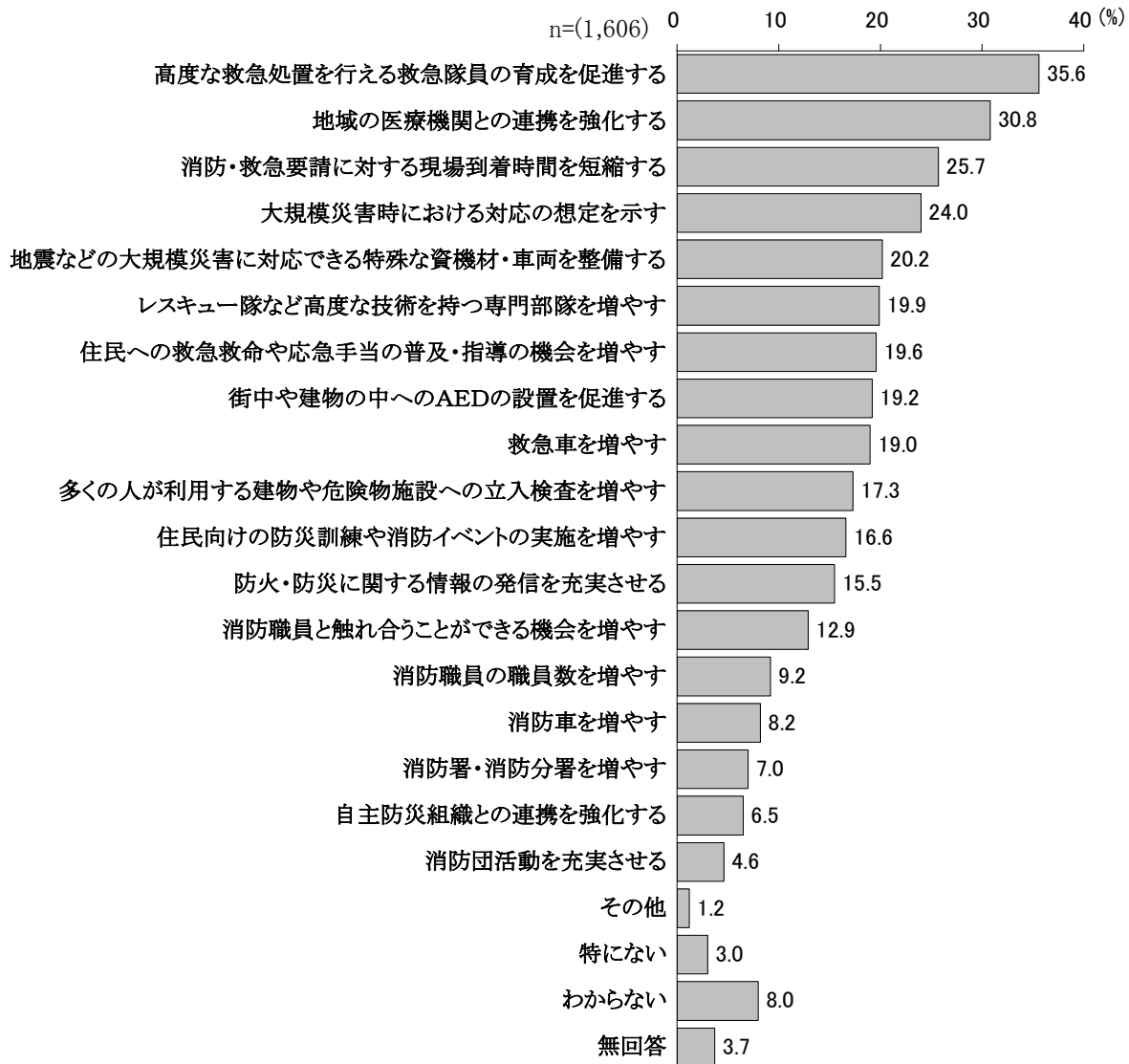
地区別にみると、「近くに消防署・消防分署がある」は高階地区で90.6%に達し、霞ヶ関北地区と山田地区で8割台、南古谷地区と名細地区でも7割台と多くなっているが、芳野地区、古谷地区および福原地区では4割台と少なく、地区による違いが大きい。「消防車や救急車を普段よく見かける」と「救急車の配備が充実している」は霞ヶ関北地区と山田地区で、「街中や建物の中でAEDをよく見かける」は芳野地区や古谷地区などで比較的多くなっている。この他、「防災訓練や消防イベントを実施している」は古谷地区と霞ヶ関北地区で3割弱、「災害現場での消防職員の活動の様子を見て」は南古谷地区で29.4%と比較的多くなっている。

地区別（上位8項目）



(5) 充実すべき施策

問25 消防・救急・防災の面で「安全・安心」をより一層実感できるよう、川越地区消防組合が今後、特に力を入れて取り組むべきと思うことは何ですか。次の中から5つ以内で選んでください。(〇は5つまで)



消防・救急・防災の面で、『安全・安心』をより一層実感できるよう、川越地区消防組合が今後、特に力を入れて取り組むべきことを聞いたところ、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」が35.6%で最も多く、以下、「地域の医療機関との連携を強化する」が30.8%、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」(25.7%)、「大規模災害時における対応の想定を示す」(24.0%)、「地震などの大規模災害に対応できる特殊な資機材・車両を整備する」(20.2%)が2割台で続いている。

性別に上位5項目をみると、第1位から第4位までは男女とも同じ項目があげられている。第5位には、男性では「地震などの大規模災害に対応できる特殊な資機材・車両を整備する」、「住民への救急救命や応急手当の普及・指導の機会を増やす」（ともに22.3%）が、女性では「レスキュー隊など高度な技術を持つ専門部隊を増やす」（20.6%）があげられている。

年代別に上位5項目をみると、「高度な救急医療を行える救急隊員の育成を促進する」、「地域の医療機関との連携を強化する」、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」及び「大規模災害時における対応の想定を示す」は多くの年代で5位以内にあげられており、世代を超えた要望となっている。その中で、「大規模災害時における対応の想定を示す」の位置付けは若年層では高いが、年代が上がるにつれて順位を下げ、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」、「地域の医療機関との連携を強化する」、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」といったより身近な対応の充実がより上位となっている。また、20～29歳では、「街中や建物の中へのAEDの設置を促進する」が唯一第2位となり、更なる促進に取り組むべきものとしてあげられている。

性別／年代別 上位5位表

(%)

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
【性別】	男性	救急隊員の育成 n=664 34.0	地域医療機関との連携強化 30.0	現場到着時間の短縮 24.8	大規模災害時における対応の想定 23.2	特殊な資機材・車両の整備／救急救命や応急手当の普及・指導 22.3
	女性	救急隊員の育成 n=919 37.6	地域医療機関との連携強化 32.2	現場到着時間の短縮 27.0	大規模災害時における対応の想定 25.2	高度な技術を持つ専門部隊 20.6
【年代別】	20～29歳	大規模災害時における対応の想定 n=116 37.1	街中や建物の中へのAED設置促進 35.3	救急隊員の育成／地域医療機関との連携強化 30.2		現場到着時間の短縮 25.9
	30～39歳	救急隊員の育成 n=227 32.2	大規模災害時における対応の想定 28.6	地域医療機関との連携強化 27.3	現場到着時間の短縮 25.1	救急救命や応急手当の普及・指導 23.3
	40～49歳	救急隊員の育成 n=258 38.4	地域医療機関との連携強化 34.5	大規模災害時における対応の想定 26.7	特殊な資機材・車両の整備 25.2	現場到着時間の短縮 22.5
	50～59歳	救急隊員の育成 n=210 36.2	地域医療機関との連携強化 34.8	現場到着時間の短縮 26.2	大規模災害時における対応の想定 25.7	高度な技術を持つ専門部隊 25.2
	60～64歳	救急隊員の育成 n=191 40.8	地域医療機関との連携強化 36.6	現場到着時間の短縮 28.3	大規模災害時における対応の想定 26.7	救急救命や応急手当の普及・指導 22.0
	65歳以上	救急隊員の育成 n=581 36.3	地域医療機関との連携強化 28.6	現場到着時間の短縮 27.4	救急車を増やす 21.2	救急救命や応急手当の普及・指導 20.1

※便宜上、選択肢は短縮して表示している。

地区別に上位5項目をみると、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」、「地域の医療機関との連携を強化する」はすべての地区で5位以内にあげられている。また、「消防・救急要請に対する現場到着時間を短縮する」、あるいは「救急車を増やす」もほとんどの地区であげられており、救急体制の充実の要望を求める声は各地区で共通と言える。この他、「地震などの大規模災害に対応できる特殊な資機材・車両を整備する」、「レスキュー隊など高度な技術を持つ専門部隊を増やす」や「住民への救急救命や応急手当の普及・指導の機会を増やす」といった項目も比較的多くの地区であげられている。一方、「多くの人々が利用する建物や危険物施設への立入検査を増やす」が芳野地区では27.5%で第2位、「防火・防災に関する情報の発信を充実させる」が福原地区では29.7%で第3位にあげられているなど、力を入れて取り組むべき施策には地域ごとに違いもみられる。

地区別 上位5位表

(%)

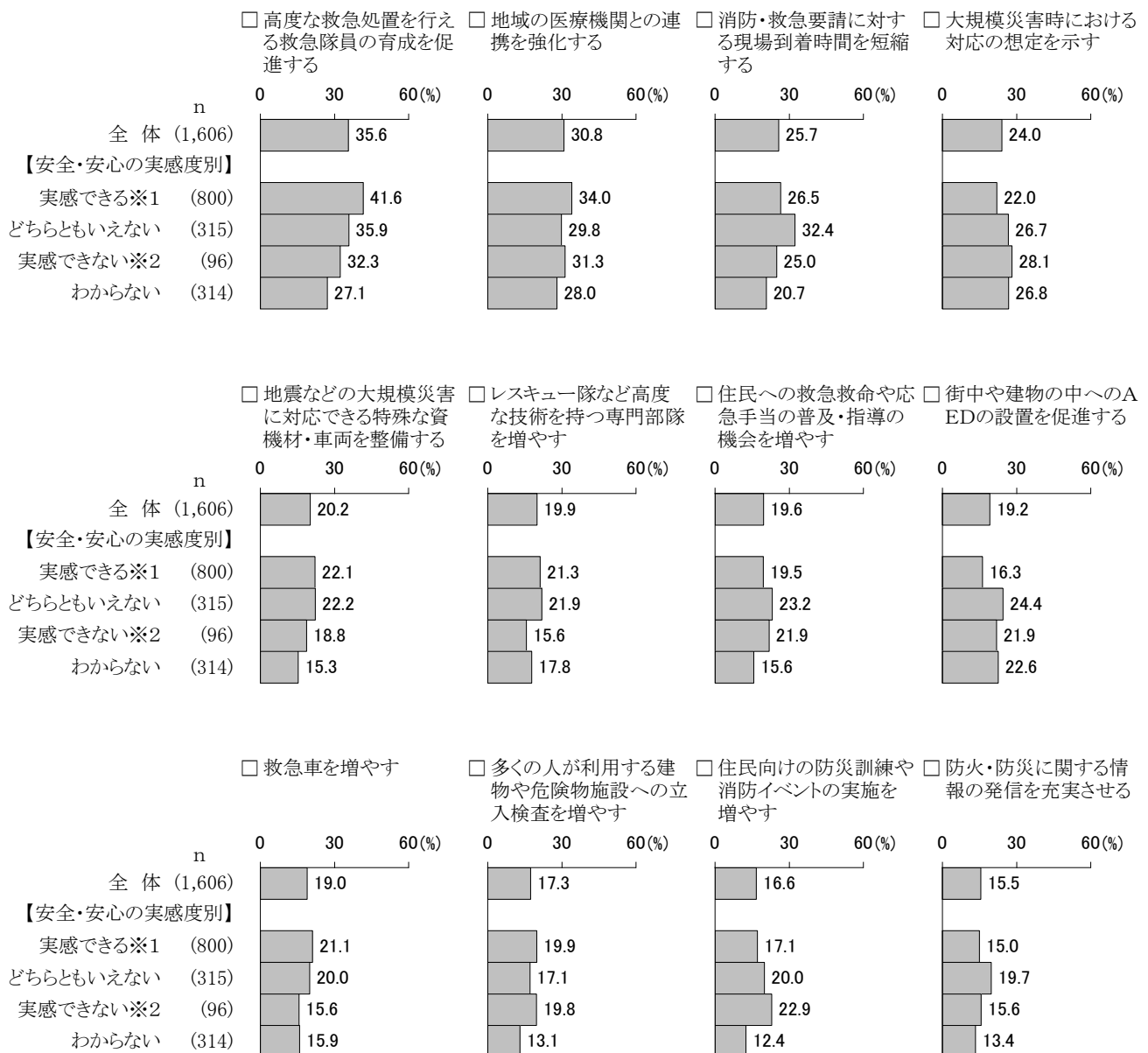
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
【地区別】	本庁地区 n=346	救急隊員の育成 39.9	地域医療機関との連携強化 32.9	大規模災害時における対応の想定 29.5	現場到着時間の短縮 28.9	街中や建物の中へのAED設置促進 23.4
	芳野地区 n=51	救急隊員の育成 29.4	建物や危険物施設への立入検査を増やす 27.5	大規模災害時における対応の想定 23.5	現場到着時間の短縮／ 地域医療機関との連携強化 21.6	
	古谷地区 n=79	大規模災害時における対応の想定 31.6	救急隊員の育成 29.1	地域医療機関との連携強化 27.8	現場到着時間の短縮／ 特殊な資機材・車両の整備 22.8	
	南古谷地区 n=103	救急隊員の育成 32.0	現場到着時間の短縮／ 大規模災害時における対応の想定 29.1		救急救命や応急手当の普及・指導／ 地域医療機関との連携強化 23.3	
	高階地区 n=186	救急隊員の育成 34.4	地域医療機関との連携強化 33.3	現場到着時間の短縮 28.0	特殊な資機材・車両の整備 26.3	救急救命や応急手当の普及・指導 24.7
	福原地区 n=91	救急隊員の育成 40.7	地域医療機関との連携強化 37.4	防火・防災に関する情報発信の充実 29.7	救急救命や応急手当の普及・指導 25.3	救急車を増やす 24.2
	大東地区 n=153	救急隊員の育成 36.6	地域医療機関との連携強化 32.7	現場到着時間の短縮 22.9	高度な技術を持つ専門部隊／ 特殊な資機材・車両の整備 21.6	
	霞ヶ関地区 n=167	救急隊員の育成 32.3	地域医療機関との連携強化 31.1	大規模災害時における対応の想定 26.3	現場到着時間の短縮 22.8	防災訓練や消防イベントの実施 22.2
	霞ヶ関北地区 n=87	救急隊員の育成 29.9	地域医療機関との連携強化 28.7	特殊な資機材・車両の整備／ 街中や建物の中へのAED設置促進 25.3		救急車を増やす 21.8
	名細地区 n=137	救急隊員の育成 40.9	現場到着時間の短縮 32.8	地域医療機関との連携強化 32.1	高度な技術を持つ専門部隊を増やす 29.9	救急車を増やす 24.1
	山田地区 n=70	救急隊員の育成 32.9	救急車を増やす 28.6	大規模災害時における対応の想定 25.7	街中や建物の中へのAED設置促進／ 地域医療機関との連携強化 24.3	
	川島町 n=106	救急隊員の育成 43.4	地域医療機関との連携強化 35.8	現場到着時間の短縮 30.2	特殊な資機材・車両の整備／ 救急救命や応急手当の普及・指導 22.6	

※便宜上、選択肢は短縮して表示している。

問24で尋ねた安全・安心の実感度別にみると、“実感できる”では、「高度な救急処置を行える救急隊員の育成を促進する」(41.6%)、「地域の医療機関との連携を強化する」(34.0%)などへの要望が比較的多い。

“実感できない”では、「大規模災害時における対応の想定を示す」(28.1%)、「住民向けの防災訓練や消防イベントの実施を増やす」(22.9%)、「住民への救急救命や応急手当の普及・指導の機会を増やす」(21.9%)が2割台と比較的多くなっている。

安全・安心の実感度別（上位12項目）



※1 実感できる：「実感できる」と「ある程度実感できる」の計

※2 実感できない：「まったく実感できない」と「あまり実感できない」の計

1. 自由記述

最後に、川越地区消防組合に対するご意見や安全・安心のまちづくりについて消防行政へのご希望がありましたら、ご自由にお書きください。

川越地区消防組合に対する意見や安全・安心のまちづくりについて消防行政への希望を自由に記述していただいたところ、334人の方から401件の貴重な記述が寄せられた。1人で2つ以上の内容にわたって記述している場合はそれぞれ1としてカウントするため、件数は延べ件数となる。

消防組合（職員・隊員・署）について	177
・応援、感謝、励まし、ねぎらいの言葉	156
・署員の増員や消防車・救急車の増車が必要だ	7
・消防署が近くにない地区の増設や対応の迅速化が必要だ	7
・一層の人材、組合力の強化に取り組んでほしい	5
・電話通報への対応は丁寧であってほしい	2
今回のアンケート調査について	32
・今回のアンケートで啓発された／知らないことがわかった／参考になった	19
・調査の手法／設問設計への意見など	5
・接点がないなかで回答がしにくかった	4
・今回の結果を報告、反映してほしい	4
自然災害・大規模災害について	31
・自然・大規模災害を想定した住民の行動指針を示してほしい	13
・自然災害・大規模災害に対する十分な対策をしてほしい	10
・自然・大規模災害に備えるため情報をうまく活用してほしい	4
・避難先、避難所生活が不安だ	3
・震災体験者の在宅避難生活の冊子をつくってほしい	1
情報発信・PR、住民との交流機会について	29
・積極的なPR活動をしてほしい	17
・住民と交流する機会や行事があるといい	9
・そもそも消防組合とは何か	2
・緊急時以外は笑顔で接してくれると馴染みやすい	1
各種訓練・指導・講習会等について	26
・事業所、学校、自治会等に対する訓練・指導を増やしてほしい	8
・訓練・指導・講習の必要性を感じる	7
・もっと多く身近で気軽に参加できるといい	7
・今後も継続してほしい	2
・参加して勉強になった	2

火災（災害）予防対策について	25
・防災パトロール、地区巡回を強化してほしい	10
・防災放送が聞こえにくい、何を言っているのかわからない	9
・野外焼却の対策をしてほしい	2
・空き屋放置対策をしてほしい	1
・防火水槽の定期点検を実施してほしい	1
・多くの人々の集まる所の安全指導と積極的な監視活動を行ってほしい	1
・火災の場合、近隣住民の避難も働きかけてほしい	1
病院等関連機関との連携について	20
・搬送先の迅速な決定が実現できるようなシステムの構築を願う	13
・地域医療機関や警察との連携を高めてほしい	3
・県の医療技術、医師の向上を願う	2
・市行政との人材交流を図るべき	1
・救急車搬送の際、かかりつけの病院に搬送してほしい	1
緊急車両とその通行する道路について	19
・狭隘道路や障害物のある道が多く、緊急車両通行の障害にならないよう関連機関と連携し点検と整備をしてはどうか	11
・サイレンの音が気になる	3
・消防車、救急車の出動・到着に時間がかかる	2
・一般道路内に緊急時専用路を整備してほしい	1
・救急車利用後の病院からの帰宅や付き添いの案内があると良い	1
・現在把握している緊急車両通行に困難のある道、場所の情報を公開してほしい	1
住民への防災・救急意識の啓発について	12
・各種手段を利用して住民に対する積極的な防災意識啓発をしてほしい	7
・戸別訪問を実施してほしい	2
・住民自身の防災への意識向上が必要だ	1
・緊急車両に対する住民の意識が低い	1
・救急車利用者の意識向上が必要だ	1
災害時の不安やお願い	10
・高齢者、要介護者、障害者世帯に対する緊急事態対応を充実してほしい	7
・地区の端に居住しているため緊急時の対応が遅れるのではないかと	2
・地区にどんな世帯が居住しているかを把握することで時間短縮が可能になる	1
防災関連用品について	9
・消火器について（詰め替え方法、処分方法、購入場所）	4
・火災報知器について（安価で／わかりやすい設置方法）	3
・AED設置場所をもっと増やしてほしい	2
その他	11